

製作に於ける自由材料と廢物使用

メリー、ウ井ルコツクソン

幼稚園と幼學年での製作とは、子供の自發的な、有目的活動である。謂はば、材料とは、發表の手段であつて、製作は思考を伴ふ自由な實驗でなければならぬ。又材料の質が子供に新しい思ひ付きを呼び起したり又教室相當な題材を提出させたりする事が屢々ある。であるから子供の本能的な興味を惹く様に上手に材料を選ぶと云ふ事が大切である。

本能は吾人の、精神生活を生せしむる原料だと、ジュームスは云つてゐる。材料は子供の多くの個性——即ち構成的、研究的收集的社交性好奇心模倣的遊戯所有感又手工的興味——を充すのに有效である。

子供が之等原材料で自由に實驗をする時には、教師はただ背景となつて居るべきである。といふのは自由な實驗は獨創と熟慮とを發展せしめて自己の力量に對しての自信を増すからである。背景にあつてもなほ教師は子供の實驗を前進的に導き得る。

若し教師が一群の子供の前に立て、象の切りぬきをして見せれば、それは子供自身の精神的な努力を

無視した事になる。其時子供は單に紙片を見又紙を剪るが眞當の象としては見ない、子供の想像と獨創はさえぎられてしまふ。子供に手本を示すといふ事は、一種の犯罪とも云ふべきである。かような教師は一個の精神を殺してまでも目前の良結果を望まふとする者である、そして子供の有目的な製作といふ事には盲目的な信用さを持ちながら其の結果に對しては非常に臆病である。彼女は粗雑なしかし貴い、結果を恐れて、爲に自由な實驗の喜を子供から奪ふ。

子供は自分一人で切りその結果を實物と比較し、(さう出来る時には)缺點を發見して次の試みへどうつる。かうして彼の作た二つの象を子供は比較してみる、そして其處に判斷力が増進される理である。然し當面の問題として「何處から自由實驗の材料を得るか？」といふ事が直ぐに起る。イリノイスとウキスコシンの五十人の幼稚園と幼學年教師に「製作に就いて自由實驗の機會を子供に與ふるか否か」を問ふた處二〇の答は、それは、自由實驗といふ事は、

製作に於ける心理學上の唯一の方法であるので少くとも一日一回はその機會を與へるといふ確心を述べられた。しかし材料の不足が經濟的にひき起す要求によりこの一回の他の製作は教師が子供の前で手本を切て示すといふ事であつた。二十四人の教師は手本によつての製作と共に幾分かの自由實驗を課するといふ事であつた。六人の教師は自由實驗の爲に要する多くの材料を得られない(經濟上)が爲に手本を示す方法のみを用ふといふ事をあからさまに承諾された。

學校は、已に必要な積木、粘土、砂、運動具、玩具を購た後には、製作の爲に紙を買ふべき餘金を持つてゐない。又他の材料の要求といふ事は念頭にさへ置かれてなかつた。

かういふ理由が、材料の缺乏といふ事の爲に不利な立場にある教師が、子供から、貴い自由實驗を奪つてもよいといふ意味になるであらうか。

これが、幼稚園と小學校の製作の日程から自由實驗を省略するのが正しいといふ意味になるだらうか。否、實に簡明に、これまで看過されてあつた多くの自由材料を有効に用ひ又集めなければならぬと

いふ事である。

教師や子供のごく僅かな努力で、自由材料や廢物が集められ得る結果は實におどろくべきほどである。次のは、多くの子供の本能を充し得る此種の材料の表である。

I、自由な廢物の紙類。|| 皺にしたり、ちぎつたり、切り細ざいたり、褶んだり、構成たりする爲に||

1、新聞紙

2、紙袋—家から持て來るいらなくなつたハローウキンのお面や何か。

3、包み紙—家庭からでも、學校からでも。

4、薄い紙—お母さんの買物の—ヘヤチットのや、靴の箱についてゐるもの。

5、壁紙—家の壁紙のくづ。

6、色紙—買ったものでないもの。

7、古い封筒。

8、上級で一度使用した紙—數學や英語の時に片側だけ使つたもの。

9、ナプキン—家や學校での集りの残りもの。

10、古いカレンダー。

11、古い手帳。

12、リボンポルトー雜貨商からもらふ。

13、ちりめん紙—學校の集の後の不用のもの。

14、皺のよつた紙—本を包んだもの。

15、ポスター、廣告のもの。

16、バラビン紙、キャンディーの箱やお辨當の包

みから。

17、紙製のナッツ入れ—家や學校の集りの後のもの。

紙の製作は、道具を用ふるので粘土や砂の製作より一歩進んだものである。糊と鋏が必要。紙は、まづ製作以外の他の事に使はれる、或る幼稚園では、まづ紙がナブキンやテーブルクロスに用ひられた。

子供達が朝の食事を、何も無いテーブルで食してゐた時、一幼児が「お母さんのテーブルにはナブキンやテーブルクロスがある」と云た、又他の子が「これは遠足の様だ、遠足の時にはナブキンやテーブルクロスはないもの」と云つた。又他児が「でも紙のナブキンやテーブルクロスなら何時だつて使ふ」と云た。教師は、「ちや遠足に來た事にしやう」と云て一人の子供をよんで、テーブルクロスになるも

のを見出させる、子供は印刷しない大きな新聞紙をみつけた。又他の子は、小さい薄紙をみつけてナブキンにした。自由遊の後に小さい子供の群は幼稚園の人形の家族に小さいテーブルクロスやナブキンを使用して食事をとらせた。

子供の最初の鋏の使ひはじめは、細々に切ることである。子供は要求の満足するまで、存分に剪る事を許される、しかしそれは目的なしにするのではない。人形の布團の中に入れる爲めといふ事で、はじめ、剪りこまざきに目的が出来て來る。後に細長い小切を剪る、その小切は砂場に造た村の街路や歩道の敷き物に使ふ。

きりぬき帖を造るのに、雜誌から繪をきる時、子供は初めて線に添て切るといふ事を學ぶ。繪を、きりぬき帖にはる時には大テーブルの周圍に皆あつたりテーブルを新聞で覆て後に糊を使ふ。子供達は出來上りを比判しながら糊の使ひ方を話しあふ。ペーヂに繪がはられてから其處へ紙を一枚入れる「まるでマザーグースの本の様だ」と一人の子供が叫ぶ。又一人が「マザーグースの表紙には繪がある。私は今度の新しいキリスキ帖の裏にクレオンの繪をかき

たい」といふ。後に子供達は各々のポスターやきりぬき帖の爲に簡単なものを切る。又建物、家具、車玩具等を作る教師は幼稚園に於ては紙をちぎる事は奨励しない、といふのは小さい子供には無目的であるから。然し幼學年に於てはさうではない。過ぐる夏の事であつた幼學年の一群は黒板に公園を作つた一茶色の枝の上に緑のちぎつた紙をはり付けてそれを木にした。

○幼稚園及幼學年兒童の案出した紙製作の題材。

- 1、繪を剪る事と畫く事
- a、きりぬき帖を作るのに
- b、揭示板へ畫く爲に
- c、一つ／＼の又團體的の目的のポスターの爲に
- 2、お話の圖解
- a、お話の中で自分の好きな部分を簡單に畫き表すこと
- b、畫で表すお話の一連続
- c、畫で表すお話の團體的に作られたもの

各兒がいくざりづゝのお話を表し、それを寄せあつめてポスター又は小さい本を作る、これにはたとへば「ジャックの建てた家」「おばさんと六

錢」のやうな筋の漸進的のものが適してゐる。遠足とか小集とかいふ學校の活動を畫で表した記録にする爲に

- 4、動物の繪本を作るのに動物をきりぬく爲に
 - 5、或る計畫に必要なものを構成する爲に
- たとへば人形の家といふ計畫の爲に椅子、テーブルやその中に住む人形を要す如き。
- ### II、ボール紙の自由材料と廢物使用。

剪たり構成たりする要求の爲に

- 1、ボール箱、學校又は家から或は方々の商店からあつめたもの

- 2、厚紙、音樂會の廣告とか店の廣告類
 - 3、カレンダーの後の裏紙
 - 4、切符、小集會に使つたもの
 - 5、バタ皿
 - 6、ミルクつぼの上の蓋―牛乳屋でもらへる―
- ### ○幼稚園及幼學年兒童の案出した、ボール紙製作の題材。

- 1、浮くもの、ボートや動物等
- ―ボール紙を剪り着色してミルクの中につめる。―
- 2、箱で造つた一つ／＼の又團體的の人形の家。

ストロブ、テーブル、椅子等。

3、荷車と車

—ミルクつばの上蓋を車輪にして作る、砂場に造
た農園や小さい町の爲に。

4、動物

プラスチックをつけて立つように造る。—

農園や曲馬團に使ふ爲に

5、のぞき繪

—靴の箱をきりぬき玩具や繪の中に入れる—

ボール紙製作は、紙製作より一層むづかしいが然
し非常に價值のあるものである。「硬ばる」といふこ
の材料の性質がその用途を大層廣くするから。又箱
を使ふ構成は、四面がすでに出来上てゐるので大變
助かる處から、幼兒にとつては價值あることであ
る。

Ⅲ、自然物の自由材料と廢物使用。

—子供の集收的、構成的本能を充す爲に—

1、穀物

- a、畑、—じゆつつなぎをする時の爲に—
- b、ごもろこし、

糸につないでクリスマスツリーの飾にする。

2、種、—つなぐ爲と蒔く爲—

a、南瓜

b、メロン

c、豆(赤、綠、そら豆等)一時間湯に浸し又は

一夜水に浸して通す。

d、青豆

e、胡瓜

f、瓢箪

3、翼のある種

a、楓

b、楡

c、楊黃

d、いなごまめ

e、とねりこ

4、くるみ類

—動物や人形を造るのに、又つなぐのに—

v、落花生

b、巴旦杏

c、トチの木の実

d、どんぐり

e、椰子や桃の実

5、 莓類

a、 つる桃

b、 青いグスベリー

6、 莖、—つなぐのに使ふ—

a、 たんぼ

b、 クローバ

7、 葉

a、 鎖に造る

1、 さくら

2、 梨

3、 りんご

b、 飾にするもの

1、 バラフィンを塗た葉

2、 油紙で裏うちした葉

3、 おし葉

4、 シェラクを塗た葉

c、 青寫眞の爲に

d、 葉の本を作り、それにはりつける爲に

—粘着する様にプラスチックを用ひ又は紙でベ

8、 管うどん、—つなぐ爲—

9、 にんじん、かぶ、わさび

10、 人形芝居の爲に

a、 甘藷、キアベツ

b、 にんじん、かぶ

11、 麥藁—飾にする爲に—

12、 紅胡椒、ハローウキンパータイの不用品

—南瓜の顔の鼻にする。スープの味付にも用

ふ。

13、 卵の殻—人形を作る、—

14、 梅、あんず—人形の顔に—

自然物を用いた製作は、子供の集積性を組織立てるのみならず自然に對する知識を増して子供の生活を豊富に且つ深いものとする。自然物を蒐集するといふ事は無目的な事ではない。遠足は理由なし、目的なしには行はれない、たとへば教室を飾る爲に葉を集める事をする。そして新しい材料が出来れば子供にとつてはそれが新しい題材になる。本能的な子供の好奇心は材料が室内に運ばれて、それについて、あれこれと語らるゝ事を要求する。子供は種々な異た野菜や果物等について知り度いと望む。そして其等に就いて語り合ふ爲に子供は彼等のまわりの自然

に對する感賞の度を増して行く。

○幼稚園及幼學年兒童の提出した自然物材料を使用
しての製作の題材。

1、新しい人形の家族を作ること

a、ごもろこしの穂

b、卵の殻

c、梅

d、あんず

e、クルミ

2、室飾り

a、葉で飾る

b、ハローウキンや感謝祭の時に麥藁で飾る

c、ハローウキンの時、南瓜で作た顔で飾る

d、ごもろこしをつないだ鎖でクリスマススト
リを飾る

e、窓に籠を下げる—人參

f、室内の花箱、—家から持て來て種をまく。—

3、メイクキーンの翹を作るのに

a、たんぼのくさり

4、人形の家のお皿を作る

a、どんぐりのお皿

b、くるみ、巴旦杏、落花生

5、人形芝居

a、野菜で人形の身體を造る

IV、木材の自由材料及廢物の使用

1、木片—大小の—

2、かご

3、煙草の箱

4、莓の箱

5、雜貨品の箱

6、大工がくれる木片のよせあつめや、いら
ない釘や折釘、槌や鋸、くぎぬきの類

7、かんなくづ

8、糸まき

9、干物どめ

木材とする製作は道具を使つるので更に價值がある。はじめ子供は、たい金槌を打つ丈でたくさんであるがまもなく鋸をひく事に興味を持つ。そして自分で仕組んだ題材の爲に、合はせたり釘付けたりする前にまづ望み通りの形に材料を切るといふ事が必要になるから。

○幼稚園及幼學年の兒童の提出した木工の題材。

1、人形の家―大きい木箱又はミカンのかごで

a、家具

b、人形

2、玩具―クリスマス玩具店の爲に

人形の車、動物、荷車、車、マザーグースの玩

具

3、窓の箱

4、鳥の家

5、小劇場

6、雜貨店

7、室の鉛筆棚

8、花さし

9、運動靴の棚

10、本棚

V、縫ふ爲めの自由材料と廢物使用

1、家から持て來た布の小ざれ

a、木綿

b、毛織

c、絹

2、お芝居をする時の着物

縫ふ材料を用ひてする製作は、幼稚園及幼學年に

於てはごく限られた範圍のみである、といふのはこれは細い筋肉を使ふ事になるからである。ごく幼い子は縫ふといふ事は少しもしない。少し長じた子でもほんの僅かで、使ふ材料も大きい粗雜なものを用ふ。

○幼稚園及幼學年兒童の提出した縫ふことの題材

1、人形の衣服

2、人形の家の装具

a、カーテン

b、シャツ類

c、しきもの

3、ゲームの材料

a、豆囊

b、麥囊

c、石彈の囊

4、お芝居の衣裳

a、印度風の衣服

扱、終りにのぞんで私は二人の教師が、自由材料と廢物の使用によつて如何に構成の材料缺乏に打ち勝つたかといふ例について語らふと思ふ。

是等の教師は、西南部の不毛な鑛山區域に建てら

れたメキシコ人の學校に働いてゐた。不完全な古い建物の中に集められて數百人のメキシコの子供達は、アメリカの兒童に、不潔なメキシコ人に煩はされずに理想的な現代的校舎を興んが爲に區別されてゐるのであつた。そして社會殊に文部當局の一般的态度は、メキシコの兒童に材料を買ひ與へる事は全く金錢の浪費であつて彼等にはアメリカ兒童の使用しない材料を用ひさせるべきだと云ふのであつた。たとへこの外國兒童は何等與へらるゝもの無しでも少くとも彼等は本國に居る時より幸福であつた。彼等は暖法の行き届いた校舎に居りそして彼等を保護し得る教師の世話を受けて居た。教師はよい黒板と澤山のチョークを持って居たから不平を云ふ理由はなかつた。材料の缺乏に最も苦しんだ幼稚園及幼學年の教師達は不平を云ふ事の無益である事を知て、彼等の力を積極的方面に注いだ。そこで彼等はただ得られる(買はない)自由材料と廢物の材料を蒐集しはじめ、かくして彼等はその集めた材料を利用するに至つたのである。

幼稚園の人形の家

春の事であつた。勤儉なアメリカの主婦達が川添

ひで家を洗つてゐるのが幼稚園の窓からもよく見えた。忙しさうな大工等は富んだ鑛山師の家を建て、居た。教師は子供達をつれて家の基礎工事を見せて行た。翌日の遊び時間には積木の建築が盛であつた。一人の子供が群をはなれて隅の方にある人形の家の處に行き暫くその前に立てゐたが、やがて中から家具を出しはじめたそして大きな乾物箱の中にそれを置いた。教師が何を爲てゐたかたづねたら彼女は首を振て人形の家を指して一言「汚い」と云た。その人形の家はいたんでゐた、といふのはこの人形の家はアメリカ人の幼稚園で不用になつてなげ出され、それをメキシコ人の幼稚園にもつて來てから九月から三月までひどく使はれたからである。

で、教師は子供達をよびあつめて、フランシスカが何を爲、何と云たかを話し、そして皆で新しい人形の家を造るといふ事が決定された。教師は、爲ようといふ事で夢中になつてゐる子供達が、一つの乾物箱で仲よく働く事の不可能である事を見て家の室々に就ての興味をよび起す様にした。多くの子供達は一室か二室の粗造なレンガ造りの家に住んで居た。教師は、目前の問題解決の爲めばかりでなく、なほ健

全な考を養ふ爲に、アメリカ人の家庭へ子供達をつれて行て見せた。親切なアメリカの老主婦達は、さつぱりしてゐる牀に足跡をつけたり木製の部分へ指あとをつけたりしても、驚いた様子をしてみつめてゐる小さい茶色の顔を見て少しも悪い感じを持たなかつた。この小遠足についで、子供達は室のある家を設計しはじめた。まづ子供達は自分の造らふとする室を選ぶ、一人は居間を二人は食堂を十二人は臺所を五人は寢室を、そして十人は浴室といふ風に。教師は他の四個の大きな箱を店から手に入れる—少なくとも二尺位の高さの—、かくして子供達は大きな家具を造らふと元氣づく。教師は八年級の少女を四人手助けに借りる、しかし教師は無經驗なこの少女達が幼い子供達の家を造る事をしない様に見守る、この四人は自由材料と廢物とを集める事で最もよく教師を助けるのである。

用ひらるゝ材料

1、穀物箱—室を作るのに

これらの室は最後に一緒にされて外側を白く塗る

2、居間の家具

a、糸箱で造た椅子

b、テーブル—糸卷の上にボタンの箱を付けて

c、壁紙—包紙にクレイヨンで線をかいたもの

d、しきもの—室内裝飾材料の見本

e、カーテン—古い不用のレースの端切れ

f、ランプ—ガラス屋から寄贈されたバッテリーで

作る

g、ランプ傘—不用になつた縁のあるナツツ入れ

h、時計—ミルク殻の上蓋を面にして靴のボタン

に糸をつけて、振子にする

3、食堂の家具

a、テーブル—糸卷の上に菓子箱を膠付けにする。

b、壁紙—包紙

c、椅子—糸箱

d、しきもの—室内裝飾材料の見本

e、カーテン—レースの端切れ

f、食器棚—キャンデーの箱で銀紙を鏡にする、バッテリーを青く塗た皿、くるみの殻の皿、

ボール紙のお皿

4、臺所

a、ストープ—黒い箱

b、テーブルキャンディーの箱

c、椅子—糸箱

d、ながし—バティーで白く塗た

e、臺所什器—キャンディーの包紙、ナツツカツ

f、名刺箱、厚紙で作つたもの

f、牀敷—リノリウムの見本

5、寢室

a、ベッド—鉛筆箱

シートと毛布は木綿と毛織の端切れ

枕—白い布の中に紙のきりこまざいたものを入れて作たもの、

b、衣服戸棚—銀紙の鏡のついた小さい箱、

e、椅子—糸箱

d、目覺時計—圓い粉の箱

e、壁—茶色の紙

f、しきもの

g、カーテン—レースの端切れ

6、浴室

a、バティーで白く塗た装具。水桶

b、壁—青いクレイヨンで模様をつけた白い紙

c、しきもの—リノリウムの青い見本

幼學年の曲馬場

この人里はなれた鑛山の區域に一つの幸な出來事があつた、といふのは、エルパンに行く道すがら、曲馬團が此の村に止たといふ事である、場所が自由になつてゐたので教師は其處へ子供達を見せに連れて行た。翌日、はしやいである子供達は動物のことで一つばいであつた。教師は諸方から、動物玩具とその繪を借りて來た。萬屋の番頭まで教師の熱心に動かされて—勿論メキシコのいたづらつ子供達は決して破損さないと事を約して—いくらかの玩具を貸してくれた。

その動物を皆返す日が來ると或る子供達は動物の剪りぬきを造り又年長の子供達は自分達の動物を造らふといふ事を考へる様になつた。子供達が動物を造て爲た時に或る一人の子供は荷車を造らふと云つた。かくて暫時の中に曲馬團は室の一隅の牀の上にひろげられた。

使用材料

1、荷車—キャンディー箱、粉の箱、ミルク壺の蓋
と、洗濯屋でたゞもらつて來た、カラのボタンと
結びつけて車輪にする。

2、動物—靴箱の蓋で作る

3、馱者—人形の肩を幅廣くして、車の前の切れ目の處へさしこむ。

色を塗るといふ事は最も効果のある事である。

象を鼠色に、キリンを黒づんだブチのある黄と茶に、驢馬を黒と白に、馬を白、黒、茶、又黄褐色に、駱駝を淡い茶色に、動物の車と手綱は黄に、車輪は赤に、馱者は赤と黄のピロッドに、田舎の人には白と赤と黄のまだらのある衣服を着せ、曲馬主にはキラ／＼する赤いピロッドの着物に大きな銀の擴聲器を持たせる。

—The Kindergarten and First Grade—など。

新緑をたづねて野ばらの香、小川の唄に聞き入る時がまゐりました。

單純な自然の詩、複雑な人生の詩、詩にあふれた子供の世界、わが詩の世界、わが幼児の世界に私共が没頭する時同じ對象の爲に、北米のヒツブルグでは四月十六日から二十日まで萬國幼稚園協會の會合があつたとき々です。その詳報はまだ知れませんが。かうした會合の事あるを耳にして、我が幼稚園も又世界のわが幼稚園である事を思ひます、そのも一歩前に我が日本の幼稚園である事を。

澤柳博士が我國教育者廿萬の一致團結を提唱せられます。北米に萬國教育者の會合が開かれます。時代は協力を要求して居ります。貴い一人は、集て更に異た意味の貴さを生み異た意味での力を生みます。

今更めて居りますが、私は、「お互に歩きませう」と言ひたくなりました。